

令和5年度

藤島地域教育振興会議（第5回会議） 次第

日時：令和5年6月2日（金）午後6時30分～

会場：鶴岡市藤島庁舎3階大会議室

1 開会

2 挨拶

3 説明・協議

（1）地区説明会で寄せられた意見等の報告と取扱い、今後の検討の方向性

資料No.1、No.1（別紙1、2、3）

（2）保護者アンケートについて 資料No.2

4 その他

5 閉会

令和5年度 藤島地域教育振興会議（第5回会議） 出席者名簿

■委員

(敬称略)

区分	No	役職	氏名	備考	
組織選出	自治会等役員	1	藤島地区自治振興会長	齋藤 昭彦	
		2	東栄地区自治振興会長	高橋 和夫	R5 から
		3	八栄島地区自治振興会長	成田 信一	
		4	長沼地区自治振興会長	高橋 俊一	
		5	渡前地区自治振興会長	近藤 直志	
	児童生徒保護者	6	藤島小学校 前PTA会長	菅原 治	
		7	東栄小学校 PTA会長	今野 貴行	
		8	渡前小学校 PTA会長	須貝 高貴	R5 から
		9	藤島中学校 前PTA会長	中田 英幸	
	未就学児保護者	10	いなば幼稚園 保護者会長	高橋 広剛	R5 から
		11	藤島こりす保育園 前保護者会長	佐藤 謙	
		12	藤島くりくり保育園 保護者会長	安在 堅	
	公共的団体	13	主任児童委員代表	前田 範子	
		14	藤島地域スポーツ少年団長	渡部 高生	
個人選出	有識者	15	東田川文化記念館長	遠田 良弘	
		16	前藤島地域振興懇談会公募委員	井上 佳奈子	
		17	藤島地域振興懇談会公募委員	齋藤 直美	
		18	Hisu 花ワークショップメンバー	武田 洋	

■市関係者

役職名	氏名	備考
教育委員会 教育長	布川 敦	
教育委員会 教育部長	永壽 祥司	R5 から
藤島庁舎 支所長	成田 譲	

■事務局

役職名	氏名	備考
教育委員会 参事兼管理課長	清野 健	事務局長
教育委員会 学校教育課長	今野 新一	R5 から
教育委員会 学校教育課指導主幹	渡邊 智	
教育委員会管理課 課長補佐	奥山 真裕	
教育委員会学校教育課 指導係長	落合 正幸	
藤島庁舎 総務企画課長	小林 雅人	R5 から
藤島庁舎 市民福祉課長	出村 真一	R5 から
藤島庁舎総務企画課 課長補佐	後藤 春雄	
藤島庁舎総務企画課 地域まちづくり企画調整主査	齋藤 優	

令和5年度

藤島地域教育振興会議 (第5回会議) 席次

近藤 直志
委員長

議長

委員 高橋 広剛

委員 佐藤 謙

委員 安在 堅

委員 前田 範子

委員 渡部 高生

委員 遠田 良弘

委員 井上佳奈子

委員 齋藤 直美

委員 武田 洋

齋藤 昭彦 委員

高橋 和夫 委員

成田 信一 委員

高橋 俊一 委員

菅原 治 委員

今野 貴行 委員

須貝 高貴 委員

中田 英幸 委員

今野 学校教育課長	清野 兼管理課長	永寿 教育部長	布川 教育長	成田 支所長	小林 総務企画課長
-----------	----------	---------	--------	--------	-----------

奥山 管理課長補佐	落合 学校教育課指導係長	渡邊 学校教育課指導主幹	出村 市民福祉課長	後藤 総務企画課長補佐	齋藤 総務企画課主査
-----------	--------------	--------------	-----------	-------------	------------

傍聴席・記者席

受付

入口

藤島地域における小中一貫教育の検討状況についての説明会 実施報告

【R5.6.2 教育委員会管理課・学校教育課、藤島庁舎総務企画課】

1 説明会の趣旨

藤島地域の教育環境の現状と課題また鶴岡型小中一貫教育の理解を図るとともに、藤島中改築に伴う今後の教育環境のあり方を議論している藤島地域教育振興会議の検討状況等を周知するため藤島地域内各地区で説明会を開催し、説明会で寄せられた意見等を令和5年度の藤島地域教育振興会議の検討に反映させる。

2 実施体制

- ・主催：鶴岡市教育委員会、鶴岡市藤島庁舎
- ・協力：各地区自治振興会、各地区町内会連絡協議会、藤島地域小・中学校 PTA

3 周知方法

- ・4月27日に広報藤島地域版5月号と同時配送(配付数2,902戸/全世帯の93%)
- ・案内文は教育長、各自治振興会長、各地区町内会長連絡協議会長、小学校及び中学校PTA会長の連名で発出
- ・鶴岡市ホームページでも案内文と同じ内容を掲載

4 説明概要

- ・藤島地域の教育環境の現状と課題について
- ・鶴岡型小中一貫教育について、藤島地域教育振興会議について
- ・鶴岡型小中一貫教育を進めるにあたってのQ&A集 第2版

5 参加人数等

期日	会場	参加人数（うち保護者数）
5月12日（金）	八栄島地区地域活動センター	10人（2人）
5月16日（火）	渡前地区地域活動センター	25人（10人）
5月18日（木）	東栄地区地域活動センター	22人（7人）
5月22日（月）	長沼地区地域活動センター	17人（3人）
5月25日（木）	藤島地区地域活動センター	21人（4人）
	合計	95人（26人）

6 各地区で寄せられた質問、意見一覧 別紙1のとおり

藤島地区説明会で寄せられた質問、意見

質問	<p>① 鶴岡市で小中一貫教育を導入するまで時間がかかっている。また、学校の老朽化、児童生徒数の減少に着眼し一挙に解決できるものと進めてきている感じがする。</p> <p>② 藤島の小学校と中学校は令和7年以降、端的にどうなるのか。教育委員会中心に事業を進めているが、市長と議会との関係は現在、どのようになっているのか。</p> <p>③ 小中一貫教育を進めることは理解できる。非常に良いことであり、小学校と中学校の先生の連携などは分かりやすいが、果たして、小中一貫教育でできないことなのか。体制の壁があるからだと思うが、今、できない理由は何か。</p> <p>④ 老朽化の問題があるが、小学校は3つ残したままで小中一貫教育を進めていくのか。</p>
意見	<p>① 鶴岡型小中一貫教育を令和7年から実施していくわけだが、実際にやってみて大変なことが起きないのか心配。</p> <p>② 文厚エリアは藤島地域の宝である。その宝に手を着けるにはさらに良くなると困るので、その点を十分踏まえて進めてほしい。</p> <p>③ メリットを考えると全て学校が一緒になったほうが先生に良い影響があり、子どもにもよい教育を受けることができると感じた。小中一貫教育も各学校が距離的、時間的に離れていると難しいこともあることから、一緒になったほうが充実したものになり、お互いの先生方の質も高められるというメリットがある。</p> <p>④ 広くデータを出していただき、住民も学ばないと実態が分からないので伝えてもらいたい。子育て世代だけでなく、いろいろな世代の声を聞いてもらいたい。部活動の地域移行も関係するので、様々な方の意見を伺いながら、できること、できないことの共通理解を得ながら結論を出してもらいたい。</p> <p>⑤ 一番大切なのは、今の保護者がどのような教育環境を望んでいるか。学校単位で市の考え方、協力の考え方を保護者に話し、対話する機会が必要である。</p> <p>⑥ 幼児から中学校までの教育を一貫して藤島で取り組んでいくという考え方がある。</p> <p>⑦ 義務教育学校になると、国の補助率が1/3から1/2に嵩上げになるので行政で進めていると聞くと、説明会ではその説明がないことが不満である。</p> <p>⑧ 義務教育学校で成功するものもあれば、成功しないものもあると思う。成功しない場合、藤島が不利になる。そうならないために鶴岡市、鶴岡市教育委員会は何かを考えているのか。市単独予算で藤島の義務教育学校にどんなことをしてくれるのか。義務教育学校を選択した場合、1学年35人以下になったとしても2学級を維持してもらいたい。25人くらいまでは市単独予算で2学級を維持することが必要である。</p> <p>⑨ 小中一貫教育は良いことだと思うので進めてもらいたい、保護者が興味をもつようなPRが必要ではないか。</p> <p>⑩ クラブチームが少子化でチームが存続できないことになった場合、三川町のクラブに入っているのか、鶴岡市のクラブに属しているのか、どのようにしたら続けていけるのか疑問。</p> <p>⑪ 大事なことは小中一貫教育の中身である。先進事例からメリット、デメリットあると思うが、藤島でこのようなメリットがあると言葉で示してほしい。そうすれば、地域から理解してもらうことにつながり、選択肢は自ずと見えてくる。</p>

東栄地区説明会で寄せられた質問、意見

質問	<p>① Q&A集に、東栄小学校区から藤島中までのスクールバス通学時間が50分と書かれているが、それはバスの乗車時間が徒歩も含まれているか。東栄小学校区の各集落からバス停までの歩く時間は、仮に小中一貫校が藤島中の場所にできて、東栄地区の小学1年生がスクールバスで通学するようになった場合、50分は大変だが配慮はあるのか。</p> <p>② 小中一貫教育導入を決定した会議のやり取りを見ることはできるのか。その会議は何なのか。</p> <p>③ 藤島地域教育振興会議が昨年9月から始まり、今年のスケジュールもハードだが住民からの意見をどうやって吸収していくのか。この取組みはトップダウンなのかボトムアップなのか。</p> <p>④ 朝暘五小の後は藤島中ではなくその次に古い学校を改築し、その間に藤島地域で議論を煮詰め、その後に藤島中改築するという選択はないのか。</p> <p>⑤ 藤島小に東栄小と渡前小が統合し、併設型としての藤島小と藤島中を同時に改築できるのか。</p> <p>⑥ 小中一貫校になった時、今まで同様にリーダーシップを発揮する機会が少なくなるのではないか。</p> <p>⑦ 冬季間に嵐があるので、新しいスクールバス停を設置してくれるのか。吹雪の日にバス亭が除雪されていないことがあるので、しっかり除雪してくれるのか。</p>
意見	<p>① 小中一貫教育へ教育方針の大転換をするのに、議会や住民に対して説明が不足し、拙速に物事を進めていると感じる。教育振興会議委員は18人だが、住民はもっとたくさんいる。時間的にもっと早くから住民参加の道筋をたどらなければならないのではないか。</p> <p>② 小中一貫校になるのは致し方ないと思うが、登校時間が不安である。小学生と中学生では体力も違うので、通学バスがしっかり整備された状態で移行することを強く要望する。</p> <p>③ 今進めていることのメリット、デメリットを整理し提示されており大変良い。別の団体の集まりでは問題だけが強調されメリットは提示されなかった。しかし、その集いに対し内容を踏まえた上で教育委員会は後援している。このようなスタイルで堂々と進めてもらいたい。</p> <p>④ Q&A集を事前にもらいたい。</p> <p>⑤ 通学に対する不安が保護者には強いので、PTAとしてできることを提示していきたい。</p> <p>⑥ 藤島教育振興会議で話し合いが進み、地区説明会も行われており、合意形成が図られればと考えるが、もう少し話し合いを深めた方がよいという意見が多数寄せられている。</p> <p>⑦ 今よりも児童数が減れば、東栄小でも複式学級の発生が見込まれることだが、複式学級で勉強が遅れるのではないかという不安がある。複式学級が発生するようであれば、藤島全体の小学校を統合し、1つの学年になって勉強を進めた方がよい。東栄小、渡前小は児童数が少ないので、子ども同士で競い合うことができているのではないか。藤島全体がまとまれば、子ども同士も勉強やスポーツで競い合えると思うので統合に賛成する。</p> <p>⑧ 中学校の老朽化が早急な課題なので、藤島中改築を早く進めたほうがよい。</p>

渡前地区説明会で寄せられた質問、意見

質問	<p>①小中一貫校になった場合、9年間で節目をどうしていくのか。</p> <p>②いずれは藤島地域に小中一貫校を設置するという流れにあるのか。仮に教育振興会議で義務教育学校がベストと決めた内容が、市の決定となるのか。</p> <p>③令和6年度までに方針は決まるのか。</p> <p>④併設型小学校・中学校で校舎建設を考えた場合、中学校は建替えないといけませんが、小学校はそのままになるのか。また、義務教育学校になれば9年制の学校になるので、その校舎が建設されるという考え方でよいか</p> <p>⑤仮に小中一貫教育で1つの校舎にならない場合、今の校舎について耐震工事等を行うことはあるのか。</p> <p>⑥新庄市では義務教育学校の設置と地元への若者定着率に関係性はあるのか。</p>
意見	<p>①1番目に良いもの、2番目に良いものなど、選択肢に順番があればと思う。費用面からも1つの学校がよく、9年間を同じ校舎で教育に取り組んでいくのが良い。</p> <p>②特別支援やリカバリーをどのようにしていくのか。立派な建物を作っても通えなければ意味がないので、リカバリーができる体制をつくってほしい。起きた時にすぐ対応できるような考え方で形を作ってもらいたい。</p> <p>③小中一貫教育は良いと考える。ただ一番良いのは藤島地区で、一番困るのは、藤島地区から離れた渡前地区、東栄地区。地域には自治会があり、子ども会や伝統の行事で盛り上がっている。ただ時代によって変わっていくことは良いし、これからの子どもたちにも実りある未来だと思う。一番心配なのは、残された地区の自治会の高齢者が、同じ地区の若い人たちとのつながりが薄くなっていくことである。藤島全体が連携して盛り上がる様な地域づくりを進めてもらいたい。</p> <p>④藤島地区と渡前地区とでは、子どもの生活する環境に差があり、教育方針でも違いが出てきている部分がある。系統化は良いと思ったが、子どもたちの気持ちが付いて行くか行かないかが心配である。リカバリーができる体制づくりに期待する。</p> <p>⑤新庄市萩野学園の取組み教えていただければ安心する。</p> <p>⑥グローバルに活躍できる人材を育てていくことは大事だが、若い人の地元定着とは相反するものである。先行事例における若者の地元定着率のようなデータで、小中一貫校を掘り下げていけば新たな問題も出てくるし、地元でも検討するものが出てくる。</p>

八栄島地区説明会で寄せられた質問、意見

質問	<p>①小中一貫教育における「系統性を重視した学習カリキュラムの開発」とは具体的にどういうことか。</p> <p>②何を指しての「系統性」なのか。系統的な教育の具体的な点は何か。</p> <p>③小学校と中学校の一緒の校舎は建設可能なのか。</p> <p>④学年の区切りはどこに設定するのか。5—4制になったときの履修内容など学年段階の区切りは何に影響があるのか。</p> <p>⑤藤島中の改築はどうなるのか。</p>
意見	<p>①小学校を統合し一貫教育を進めたいという、それだけのように感じる。教育振興会議で先走りしているように感じる。</p> <p>②小中連携の学校で働いたが、小学校と中学校お互いにカリキュラムを検討しながら教育をしてきた。そのような流れの中ですでに柱はできているはず。</p> <p>③小中一貫教育に取り組んでも、子どもの生活や学びは変わらず、先生の取組み方が変わるだけである。子どもたちの生活が変わるという説明を聞かなければ住民としても漠然としたものになる。小中一貫校を作りたいのか。ただ小中一貫教育をやりたいだけでは、わざわざ住民を集める必要があるのか。</p> <p>④百年の大計に取り組もうしているので、地域住民の理解が大事である。説明会の資料を全戸に配布するなど理解を得るように進めたらどうか。</p> <p>⑤小学校や中学校の保護者が集まる機会を利用し話を聞いてもらったらよいのでは。</p> <p>⑥未就学児の保護者にもアンケートを取ってはどうか。</p> <p>⑦藤島の全部の小学校は老朽化し、藤島中はすぐに建て替えをしなければならない。小中一貫教育を効率よくやすめるために、建物は1つでよいと共感する。藤島地域では、そのような方向で目標を決めて向かって進めていってほしい。</p> <p>⑧小中一貫校になると思って話を聞いていたが、小中一貫教育の3つの形態どれでも選べることを理解した。小中一貫校がよい。開校時期はもっと早くならないのか。</p> <p>⑨小学校統合がありきではないので、地域住民の議論や意見を聞きこれからの若い世代に残していきたい。子どもが少ないのに建物を建て替えていくのは違うのではないか。</p> <p>⑩広報藤島版で小中一貫のことを読むが、説明会に参加しなければ分からなかった。</p>

長沼地区説明会で寄せられた質問、意見

質問	<p>①小中一貫教育を導入した際に、いじめや不登校の課題は改善されるのか。</p> <p>②小中一貫校の校舎は小学校と中学校で階違いとなるのか。同じ校舎となるのか、同じ場所にあるだけなのか。</p> <p>③旧藤島町では、平成6～7年に藤の花ニュータウン造成に取り組んだが、この結果、地域の人口は増えたのか。</p> <p>④小中一貫校では校舎新築時に国の補助率が1/2になるが、補助率が下がっても小中一貫教育を進めていくのか。</p> <p>⑤藤島地区に新しい学校ができる場合、東栄地区や渡前地区で現在学校までの距離が2km未滿で徒歩になっている児童はスクールバス対応になるのではと思うが、運行台数によって経路が伸びていくことも考えられるが果たして大丈夫か。</p> <p>⑥長沼は書道錬成やけん玉、ボーイスカウトなど他の地域と比べて特色ある学校、地域だったと思う。統合し5年が経過したが、その活動の現在どうなっているのか。</p>
意見	<p>①朝日地域では小学校と中学校が同じスクールバスに乗って登校している。中学生の悪い影響を小学生が受けているという声がある。小学生と中学生を一緒にすることに危惧される部分大きい。期待される効果として楽観的な見通しを示すのではなく、危惧される部分も大きい。</p> <p>②一番の緊急の課題は中学校の改築で、改築後に小学校の改築に向かうのか、藤島小に統合するのか、そうでなければ、中学校改築の時点で究極の形として義務教育学校にするのか。説明会で話を聞き、中学校を改築するとすれば、義務教育学校を視野に入れてやらなければならないと感じた。統合と関係するので、渡前小、東栄小は、地域を巻き込んだ話し合いや丁寧な説明が必要である。究極のゴールを目指し、中学校改築と小学校統廃合を議論していくべき。</p> <p>③木造建築で耐震性のある学校を作ることも検討してはどうか。</p> <p>④9年間の教育で、長ければ長いほどリーダーになる人とそうでない人が固定したり、人間関係が上下関係や力の関係で決まってしまう不安がある。そうならないように、様々な人がリーダーを経験できる環境を作ってもらいながら進めてほしい。</p> <p>⑤長沼小は藤島小と一緒に、いま40人1クラスでスペースに余裕がなく教育を受けている。一緒になった時に大変だと感じたので、改善していただきたい。</p> <p>⑥小中一貫教育でいじめや不登校が減ることが理想論的に説明されているが、地域の人たちが判断しやすいように、具体的な数字を提示すべきではないか。</p> <p>⑦働く場所や工業団地、住宅団地を作ることは地域振興にとって必要である。</p>

各地区説明会で寄せられた意見の取扱い (案)

No.	意見項目	概要	取扱い (案)
1	小中一貫教育に賛成	<p>① メリット、デメリットを整理し説明されている。このように堂々と進めてほしい。</p> <p>② 小中一貫教育は良いと思うが、藤島地区だけが良くなならないよう、藤島地域全体が連携し盛り上がる地域づくりを進めてほしい。</p> <p>③ 9年間の教育で人間関係が固定化しないよう、様々な子どもがリーダーを経験できる環境をつくりながら進めてもらいたい。</p>	<p>①…小中一貫教育推進への意見とする。</p> <p>②…藤島庁舎における検討の際の意見とする。</p> <p>③…小中一貫教育基本計画策定後の各中学校ブロック計画検討の際の意見とする。</p>
2	小中一貫教育への不安・不満	<p>① 小中一貫教育に取組み、想定外のことが起きないか心配。</p> <p>② 議会や住民に対し説明が不足し物事を拙速に進めている。もっと早く住民参加の道筋をたどるべき。</p> <p>③ 系統化の教育で、子どもの気持ちがついていくか心配。特別支援の体制や子どもの気持ちや関係性が切替えができる体制をつくってほしい。</p> <p>④ 小学校を統合し小中一貫教育を進めたいだけに感じる。藤島地域教育振興会議で先走りしているように感じる。</p>	<p>①③…小中一貫教育計画基本策定後の各中学校ブロック計画検討の際の意見とする。</p> <p>②④…引き続き説明会等で丁寧に説明する。</p>
3	小中一貫校に賛成	<p>① 学校全てが一緒になる方が充実し、よい教育を子どもに提供できる。</p> <p>② 複式学級は子どもの教育に不安がある。藤島全小学校が統合することに賛成する。</p> <p>③ 3つの形態の選択肢に順番があればよいと思うが、費用面からも1つの学校がよく9年間で同じ校舎で教育に取り組むのが良い。</p> <p>④ 藤島の学校施設は全て老朽化し藤島中改築に取り組まなければならない。小中一貫教育を効率的にするため建物は1つでよい。それを目標に決めて進めてもらいたい。</p> <p>⑤ 藤島では小中一貫教育の3つの形態がどれでも選べることを理解し、小中一貫校がよい。開校時期が早くならないか。</p>	<p>①～⑤…小中一貫校とする場合の意見とする。</p> <p>なお⑤のうち開校時期については、庁内関係課でさらに精査する。</p>

No.	意見項目	概要	取扱い(案)
4	小中一貫校への要望	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の宝である文厚エリアが良くなることを前提に進めてほしい。 ② 義務教育学校が成功しない場合、市、市教育委員会は何をするのか。1学年35人以下になっても、市単独予算で2学級を維持してほしい。 ③ 通学に対する不安が保護者には強い。PTAとしてできることを提示したい。 ④ 小中一貫校になるのは仕方ないが、登校時間が不安。通学バスをきちんと整備したうえで一貫校に移行してほしい。 ⑤ 木造建築で耐震性のある学校建設を検討してほしい。 ⑥ 教室のスペースに余裕をもたせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①…文厚エリア検討の際の意見とする。 ②…要望として扱う。 ③④…当該PTAと具体的に話し合いを進める。 ⑤⑥…建設計画検討の際の意見とする。
5	地域合意への要望	<ul style="list-style-type: none"> ① 子育て世代だけでなく地域の様々な世代の声を聞き、共通理解を得ながら進めてほしい。 ② 保護者がどのような教育環境を望むかが一番大切。直接、保護者に説明し、意見を聞いてほしい。 ③ 藤島地域教育振興会議、地区説明会が行われているが、合意形成のためには、さらなる話し合いが必要。 ④ 藤島地区だけが良くなならないよう、渡前地区も東栄地区も高齢者と若者のつながりが薄くならないよう、藤島地域全体が連携し盛り上がる地域づくりを進めてほしい。 ⑤ 小中一貫校の先進事例の中で地域における若者の定着率などが分かれば検討することができる。 ⑥ 地区説明会の資料を藤島地域全戸に配付するなど地域理解を進めるべき。 ⑦ 中学校を改築するとすれば、義務教育学校を視野に入れることが必要で、渡前地区と東栄地区で地域を巻き込んだ話し合いや説明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①③…説明会開催要望を受け対応する。 ②…保護者向け説明会、アンケート実施の際の意見とする。 ④…藤島庁舎における検討の際の意見とする。 ⑤…先行事例を調査する。 ⑥…要望として扱う。 ⑦…渡前、東栄各地区の代表の方々と相談し方法も含めて検討する。
6	説明会への要望	<ul style="list-style-type: none"> ① 義務教育学校建設費の国補助の嵩上げを説明していないことが不満。 ② 小中一貫教育はよいので、もっと保護者にPRしてほしい。 ③ 小中一貫教育の中身が大事なので、藤島での具体的なメリットを示してほしい。 ④ Q&A集を事前にもらいたい。 ⑤ 新庄市萩野学園の取組みを聞くことができれば安心する。 ⑥ 小中一貫校を作りたいのか。小中一貫教育の話だけで住民を集める必要があるのか。 ⑦ 児童生徒の保護者が集まる機会に説明した方がよい。 ⑧ 小中一貫教育でいじめや不登校が減ることの具体的な数字を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑧…次回説明会に向け対応を検討する。

No.	意見項目	概要	取扱い(案)
7	その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼児から中学校までの教育を藤島で一貫し取組めないか。 ② クラブチームが少子化で存続できない場合、鶴岡市か三川町どちらのクラブに属すればよいのか。 ③ 広報ふじしま地域版で小中一貫教育の記事を読むが、説明会に参加しなければ分からない。 ④ 中学生の悪い影響を小学生が受けるのではないか。小学生と中学生を一緒にすることで危惧されることも多い。 ⑤ 働く場所や、工業団地、住宅団地を作ることが地域振興に必要である。 	①～⑤…参考意見とする。

各地区説明会で寄せられた意見等を踏まえた今後の検討の方向性

(1) 今年度の検討の方向性

■第5回会議

- ①地区説明会の意見等を踏まえた目指す小中一貫教育の形態

■第6回会議

- ①第5回会議の議論を踏まえた新校舎の施設規模など
- ②必要とされる校舎機能（合築等）など

■第7回会議

- ①第5回会議、第6回会議を踏まえた地域支援、通学対策など
- ②藤島地域教育振興会議での議論のまとめ、報告書案の確認

(2) 今後についての意見交換

【事務局見解】

- ・地区説明会では藤島地域教育振興会議の議論や意見を否定する声は特にない
- ・住民、保護者からの要望等は資料No.1（別紙2）の取扱いにより対応していく

【各委員のご見解】

藤島地域における小中一貫教育導入に係る保護者アンケートについて

【R5.6.2 教育委員会管理課・学校教育課、藤島庁舎総務企画課】

1 趣旨

藤島地域における鶴岡型小中一貫教育の3つの形態（学校施設）について、将来通学することとなる子どもの保護者から意見や要望等を聴取し、今年度の藤島地域教育振興会議の検討等に反映させる。

なお、今回のアンケートは、学校施設のあり方について意見を聞くために保護者のみを対象とするものであるが、今後、小中一貫教育・小中一貫校や文厚エリアの検討状況に応じ、児童生徒や地域住民等に対象を拡大する。

2 対象

- ①各幼稚園、保育園に通園する未就学児の保護者
- ②藤島地域の小学校及び中学校の児童生徒の保護者

3 概要

- ・ 6月下旬にアンケート依頼文を各園、各校を通し配布する。
- ・ アンケートはオンラインツールを基本に、7月中旬までを期限に回答いただく（回答は実家庭をベースとする）。
- ・ 5月の地区説明会に参加していない保護者等に対し、アンケートの趣旨、藤島地域教育振興会議で議論されている内容等を伝えるため、アンケート説明会を実地で開催する。また、都合で参加できない保護者向けに、上記動画のアーカイブ配信も行う。
- ・ アンケート依頼文はA3判中折りとし内容は以下を掲載する。
P1…依頼チラシ、QRコード、アンケート説明会日時
P2～4…地区説明会で配付した資料No.2

4 設問軸

- ・ 回答者属性（居住、通園通学先）
- ・ 希望する小中一貫教育の3つの形態及び期待、不安、心配
- ・ 鶴岡型小中一貫教育への期待、不安、心配

藤島地域教育振興会議 開催経過と今後の予定

期日		主な内容	
R4	10.7	■第1回会議 ・藤島地域教育振興会議の検討内容、委員長・副委員長選任 ・藤島地域教育環境の現状と課題（児童生徒数の推移、学校施設の課題等） ・鶴岡型小中一貫教育の推進（概要、スケジュール、形態等）	
	11.17	■第2回会議 ・先進事例の研修（酒田市の小中一貫教育、新庄市立萩野学園）	
R5	1.26	■第3回会議 ・第1回、第2会議の振り返り ・「藤島中改築に伴いどのような教育環境を実現したいか」をテーマとするグループ協議	
	3.10	■第4回会議 ・グループ協議結果、令和4年度の議論の取りまとめの内容、地元意見の集約方法、地域域振興懇談会への報告事項	
	5月	◎藤島・東栄・渡前・八栄島・長沼地区での説明会	
	6.2	■第5回会議 ・地区説明会結果報告 ・地区説明会で寄せられた意見等の取扱い、意見を踏まえた今後の検討の方向性	
	6～7月	◎未就学児の保護者、児童生徒と保護者へのアンケート（アンケート説明会、説明会動画アーカイブ配信）	
	7月下旬	■第6回会議（予定） ・第5回会議を踏まえた新校舎の施設規模 ・必要とされる校舎機能（合築）など	
	9月下旬	■第7回会議（予定） ・第5回、第6回会議を踏まえた地域支援（コミュニティ・スクールの方針、部活動地域移行への対応等）のあり方、通学対策など ・報告書の内容	
	10月～12月	◎藤島地域振興懇談会へ報告 ◎各地区での説明会 ・報告書の説明 ◎鶴岡型小中一貫基本計画への反映を協議（教育委員会）	
	R6	1月	◎最終報告書の確定 ・10～12月の地区説明会の開催結果を入れた最終報告書を確定

※藤島地域教育振興会議の結果は、市ホームページに掲載、広報藤島地域版で広く周知